

# 関西医科大学 広報



淀川の川面と鏡写しになった枚方キャンパス

## 未来の光をたたえて進む

Vol.64

### CONTENTS

法人：理事長年頭所感

P.1

病院：医療安全大会

P.20

大学：阪神5大学サステナブルがん人材  
養成プラン統括会議、調印式

P.9

大学：救急医療功労者総務大臣表彰

P.21

大学：学術祭・ひらかた市民大学

P.19

病院：北河内がん診療ネットワーク協議  
会合同イベント

P.22



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

## 理事長年頭所感・部署長挨拶

1月4日(木) 16時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「理事長年頭所感表明」が行われ、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟、総合医療センター、香里病院、およびくずは病院に同時中継されました。

山下敏夫理事長は年頭の挨拶を述べた後、「教育」「研究」「診療」「法人」についての本学の現状を説明。また今後の計画や方針・目標を語りました。

また、理事長の年頭所感表明に続いて、枚方キャンパスでは学長、副理事長、附属病院長から、リハビリテーション学部棟、総合医療センター、香里病院、くずは病院においては、それぞれ学部長、病院長から挨拶がなされました。



挨拶する木梨学長



挨拶する澤田副理事長



挨拶する松田病院長



挨拶する飯田学部長



挨拶する杉浦病院長



挨拶する岡崎病院長



挨拶する高山病院長

### 大学・附属病院(枚方キャンパス)

枚方地区では年頭所感表明の後、枚方キャンパス医学部棟3階学生食堂に会場を移して賀詞交換会が行われました。会場には法人・大学・附属病院から多数の教職員が集まり、新年をことほぎました。

木梨達雄学長から新年の挨拶が行われ、教育面の質向上、研究面での国際化推進や臨床研究の充実を目標に掲げ、研究力の躍進のために教職員間の連携をしていきたいと述べました。続いて澤田敏副理事長より新年の挨拶が行われた後、乾杯の挨拶を附属病院松田公志病院長が務め、より良い診療環境の整備やスマート病院構想の実現に向けて邁進していきたいと述べました。

その後会場では教職員が思い思いに歓談し、新年の喜びを分かち合いながら決意を新たにしていました。

### リハビリテーション学部(牧野キャンパス)

牧野キャンパスリハビリテーション学部棟2階ラーニングコモンズで行われた年頭挨拶でリハビリテーション学部飯田寛和学部長が、「今春で4学年が揃い、ますます多忙になると思うがお力添えいただきたい。また今年は甲辰にあたり、さらなる成長が期待できる年だといわれているので、皆さんもますます成長していく年にしてほしい」と集まった教職員に語りかけました。

### 総合医療センター

総合医療センター南館2階臨床講堂に総合医療センターと天満橋総合クリニックの責任者が集まり、総合医療センター杉浦哲朗病院長による挨拶に耳を傾けました。杉浦病院長は前年のスタッフの労をねぎらい、今年も院内挙げて“オール総医”で、診療体制のさらなる充実や近隣医師会との連携強化に取り組みたいと抱負を述べました。

### 香里病院

香里病院岡崎和一病院長から香里病院8階会議室に集まった教職員に向け年頭挨拶が行われ、アレルギーセンターの開設や病院機能評価受審など香里病院の現状を踏まえて令和5年度の実績を振り返りました。また、新任教授着任や化学療法部センター化の予定などの診療強化に触れるとともに、安心・安全な医療を提供するため災害に対して強い病院を目指したいと今後の抱負を述べました。

### くずは病院

くずは病院2階地域医療連携ラウンジにくずは病院各部門の責任者とくずは駅中健康・健診センター浦上昌也センター長らが参集し、くずは病院高山康夫病院長による挨拶が行われました。外来患者数も増加している中で令和6年はさらに受診しやすい充実した病院をめざすという目標が伝えられたほか、心の通ったあたたかな医療をつづけていってほしいと職員ひとりひとりに語りかけました。



## 附属病院がんセンターセンター教授に就任して

附属病院がんセンターセンター教授 金井 雅史



令和6年1月1日付で関西医科大学附属病院がんセンターセンター教授を拝命いたしました。私は平成6年に京都大学を卒業後、消化器内科医としてキャリアをスタートしました。大学院で学位を取得後、臨床現場に戻りましたが、スキルス胃癌に対し当時承認されたパクリタキセルが著効した例を経験してから、がん薬物療法に興味を持つようになりました。平成16年より米国のMD Anderson Cancer Centerに留学(日本学術振興会海外特別研究員)、この間に米国医師国家試験に合格し、ECFMG certificateも取得しています。平成18年に帰学後はがん薬物療法専門医として、消化器癌を中心に、原発不明癌、希少癌、婦人科癌、軟部肉腫など幅広い領域のがんに対するがん薬物療法を実践してきました。またがんゲノム医療に関しては平成27年よりがん遺伝子パネル検査を臨床実装し、これまでに3000件を超える検

査を経験してきました。

近年、新規抗がん剤の開発に伴い、がん薬物療法の実践にはますます専門的な知識が求められるようになっていきます。がん薬物療法の専門家として、院内外の先生方から抗がん薬の選択から副作用対応まで、がん薬物療法のあらゆることに関して、信頼して相談してもらえるような部門を目指して尽力していく所存です。皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

略歴

平成6年3月	京都大学医学部 卒業
平成6年4月	京都大学医学部附属病院 内科研修医
平成7年6月	関西電力病院 内科勤務
平成9年4月	京都大学大学院医学研究科 博士課程内科系専攻入学(医学博士)
平成13年6月	京都桂病院 消化器センター勤務(副医長)
平成16年1月	MD アンダーソン癌センター ポストドクトラルフェロー・日本学術振興会 海外特別研究員
平成18年4月	京都大学附属病院探索医療センター 助手
平成23年4月	京都大学大学院医学研究科 臨床腫瘍薬理学講座 特定講師
平成27年4月	京都大学大学院医学研究科 臨床腫瘍薬理学・緩和医療学講座 特定准教授
令和2年2月	京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学講座 准教授
令和6年1月	関西医科大学附属病院がんセンター センター教授

## 附属病院血管外科診療教授に就任して

心臓血管外科学講座血管外科(附属病院)担当診療教授 森景 則保



令和5年12月1日付で血管外科診療教授を拝命いたしました。私は平成4年に山口大学を卒業、同第一外科に入局し、腹部大動脈瘤、胸部大動脈瘤、大動脈解離、末梢動脈疾患、内臓動脈瘤などに対する外科手術と

血管内治療を行ってまいりました。

特に腹部大動脈瘤に対して低侵襲治療であるステントグラフト内挿術(EVAR)は1400例以上を実施してきました。開腹せずに、鼠径部切開も行わないので疼痛はなく、短期間で日常生活に復帰が可能になることは高齢者や併存疾患を有する患者さんには極めて有用です。一方で遠隔期の再治療が多いことや解剖学的に困難なケースが存在し、本邦ではその実施率は約60%というのが現状です。それらEVARが不適となるクリニカルクエスチョンを解決すべく新たな手術手技の確立とともに多くの臨床的研究に積極的に取り組んでまいりました。そのうちの一つである遠隔期の再治療を低減する手技を無作為

化比較試験で証明し、新たにガイドラインにも追加されました。開腹術と同等の遠隔成績を得ることで、前任地の山口大学ではEVARの実施率は95%とほぼ完全に標準治療としていました。また、腹部大動脈瘤破裂の全国多施設臨床研究では現在責任者として、本邦の同疾患の救命率向上に向けて取り組んでおります。

関西医科大学赴任後もより多くの患者さんに低侵襲かつ質の高い治療を提供できるように務めて行く所存です。各診療科、各部署の職員の皆様にご大変お世話になることと存じます。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 略歴

平成4年5月	山口大学医学部附属病院 医員
平成4年8月	厚生連周東総合病院外科
平成6年8月	山口大学医学部附属病院 医員
平成7年8月	白石共立病院外科
平成9年8月	山口大学医学部附属病院 医員
平成12年8月	萩市民病院外科
平成13年4月	山口大学医学部先進救急医療センター 助手
平成14年10月	厚生連長門総合病院外科
平成17年3月	山口大学医学部第一外科 助教
平成22年8月	山口大学医学部第一外科 講師
令和4年4月	山口大学医学部第一外科 診療准教授
令和5年12月	関西医科大学附属病院血管外科 診療教授



## 心臓血管外科学講座理事長特命教授退任にあたり

心臓血管外科学講座前理事長特命教授 善甫 宣哉



平成28年12月16日付で関西医科大学附属病院血管外科科長ならびに診療教授として赴任し、最後は理事長特命教授を拝命し、丁度7年が経ちましたが、令和5年12月31日付で退任させていただきます。

一人科長で平成29年1月から平成30年9月まで心臓血管外科の湊直樹先生、岡田隆之先生、丸山高弘先生、金本真也先生にお手伝いいただきながら、平成29年は152例の血管外科手術を行いました。平成30年7月にハイブリッド手術室が完成し、同年10月より川副浩平先生、駒井宏好先生のご高配により坂下英樹先生、深山紀幸先生、山本暢子先生、北岡由佳先生、大野雅人先生、坂下英樹先生2回目、神西優樹先生、深山紀幸先生2回目と2人か

ら3人体制となり、手術症例数は平成30年180例、令和元年232例まで増加しましたが、令和2年はCOVID-19パンデミックの影響から233例と足踏みし、令和3年286例となり、令和4年度では327例の血管外科手術を行うことができました。大動脈瘤手術は平成29年88例、平成30年100例、令和元年113例、令和2年103例、令和3年106例で、令和4年度では120例の胸部・腹部ステントグラフト内挿術を行うことができました。これも皆様のご支援があった賜物と厚く御礼申し上げます。

医者になって43年、最後の7年間を関西医科大学で皆様と一緒に過ごせたこと、非常に有意義で楽しい期間でした。今後は令和6年4月より全く新しい分野にチャレンジしたいと考えております。

皆様には大変お世話になりありがとうございました。

## 令和6年度入職予定者（事務員）内定式

令和5年10月2日（月）14時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、神崎秀陽常務理事が臨席して「令和6年度入職予定者内定式」が挙行されました。この日は令和6年度入職予定の事務員内定者12名が出席。神崎常務理事によるあいさつの後、内定証書が内定者一人ひとりに手渡されました。その後、内定者は一人ずつ自己紹介と入職後の決意表明を行い、不安と期待の中、本学で働くことについて自身の思いを語りました。



内定証書を受け取る内定者

## 「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」始動

令和5年10月3日（火）17時から、ブリーゼプラザ（大阪市北区）において、「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」第1回プロジェクト統括会議及び調印式が開催されました。同プランは、近畿大学を事業推進代表とした阪神地区の国公立5大学9学部が相互に連携して、がん専門医療人（以下「がんプロ」）を養成することを目的としたもので、第1～3期で育成された人材が事業の中心を担い、継続的ながんプロ人材の育成を実施します。

この日は、本学から医学部・大学院医学研究科金子一成学部長・研究科長（小児科学講座教授）、放射線科学講座谷川昇教授、主幹の近畿大学から松村到副学長・医学部長ほか、各大学の統括会議委員や運営推進委員らが出

席。プロジェクト統括会議では、プランの概要や今後の活動について討論しました。



調印式での集合写真

# 「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

本学は昭和3年大阪女子高等医学専門学校の設立以来、日本をリードする医科大学を目指し着実に発展を続けてまいりました。現在、医学部・看護学部・リハビリテーション学部を擁する医療系複合大学として、次代へ向けてさまざまな事業が計画されております。学生の学びのため、世界に開かれた魅力ある研究環境のため、皆様からの格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金室では、個人・法人からのご寄付と遺贈寄付をお受けしております。

## 個人・法人からのご寄付

募集要項	
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他
募集期間	令和6年3月末日まで
税制上の優遇措置	
個人	確定申告により、所得税が最大40%減額となります ※住民税の減税対象は、お住まいの自治体によって異なります
法人	受配者指定寄付金制度を利用すると寄付金全額を損金算入できます ※制度についてご説明いたしますので、ご検討の際は募金室へご連絡ください

### ご寄付の方法

寄付申込書をご提出いただき、寄付金をお振込みください。

- ・申込書は、ホームページからダウンロードできます
- ・郵送のほか、メールでのご提出も可能です
- ・ご希望がございましたら、募金室より申込書、申込書送付用封筒、振込用紙をお送りいたします

### 【振込先】

三菱UFJ銀行 守口支店 普通口座 1312088 学校法人関西医科大学  
りそな銀行 守口支店 普通口座 588884 学校法人関西医科大学

### 【お問い合わせ先】

法人事務局募金室  
〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号  
TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344  
メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp  
ホームページ：https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html

なお、この募金の応募は任意です。

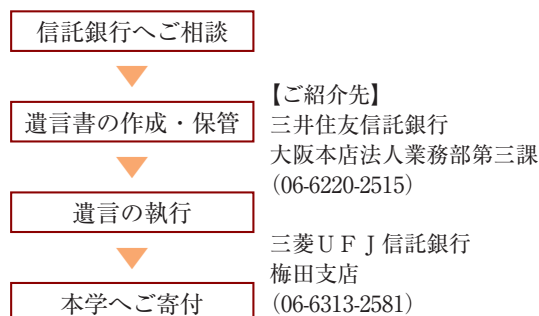
## 遺贈寄付

### ●遺言によるご寄付

遺言によって本学に寄付する制度です。

- ・ご遺言を確実に執行するために、信託銀行をご紹介します

### 遺言によるご寄付の流れ



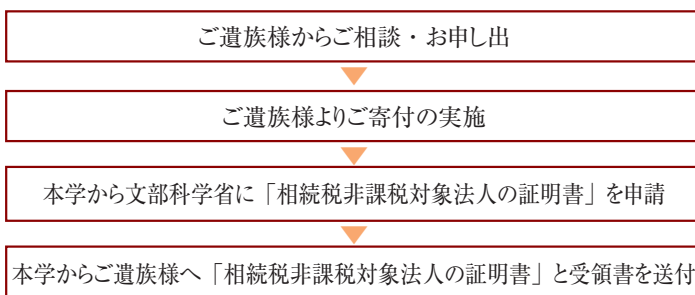
信託銀行を利用して遺言信託をする場合、信託銀行へ手数料が発生します。

### ●相続財産によるご寄付

故人様のご遺志により相続人様が、相続財産から本学に寄付する制度です。

- ・本学にご寄付された金額を申告により相続税非課税にできます
- ・現預金のみお受けしております

### 相続財産によるご寄付の流れ



このあと、ご遺族様にてご逝去された日より10ヶ月以内に相続税の申告・納付をお願いいたします。

令和5年10月から令和5年12月までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

**ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。**



# 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	<b>10月2日</b>	<b>事務職内定式</b>	
	10月25日	北河内メディカルネットワーク (KMN) 医療安全共同研修	
	12月8日	北河内メディカルネットワーク (KMN) 感染対策共同研修	
	12月22日	目標チャレンジ制度優秀者表彰	
	<b>1月4日</b>	<b>理事長年頭所感・部署長挨拶</b>	
大学	10月3日~11月10日	地域生活援助論実習 I	
	<b>10月3日</b>	<b>がんプロ統括会議・協定書調印式</b>	
	<b>10月4日</b>	<b>国際大学院入学式</b>	
	<b>10月5日</b>	<b>白菊会総会</b>	
	<b>10月6日</b>	<b>常翔啓光学園中学校・高等学校との協定締結</b>	
	<b>10月15日</b>	<b>慈仁会全国懇談会</b>	
	<b>10月16日</b>	<b>学長賞・川柳表彰式</b>	
	<b>10月19日</b>	<b>令和5年度第3回大学院企画セミナー</b>	
	<b>10月19日</b>	<b>看護学部棟避難訓練等</b>	
	<b>10月21日</b>	<b>医学部棟避難訓練等</b>	
	10月21日	看護学研究科博士前期課程進学支援研修会	
	<b>10月26日</b>	<b>リハビリテーション学部棟防災・消防訓練</b>	
	<b>10月28日</b>	<b>子ども大学探検隊</b>	
	<b>10月30日</b>	<b>医療ニーズ発表会</b>	
	<b>11月3~5日</b>	<b>学園祭</b>	
	<b>11月4日</b>	<b>看護学部保護者懇談会</b>	
	<b>11月9日</b>	<b>解剖体慰霊碑供養</b>	
	<b>11月14日</b>	<b>臨床看護学教員辞令交付式</b>	
	<b>11月18日</b>	<b>リハビリテーション学部保護者会</b>	
	<b>11月27日</b>	<b>実験動物慰霊祭</b>	
	<b>12月2、3日</b>	<b>第7回学術祭・ひらかた市民大学</b>	
	12月22日	国際交流フォーラム	
	<b>12月27日</b>	<b>臨床実習生(医学)認証式</b>	
	病院	<b>10月28日</b>	<b>北河内6医師会と関西医科大学医師会との合同懇談会</b>
		<b>12月5日</b>	<b>北河内がん診療ネットワーク協議会合同イベント</b>
<b>12月18日</b>		<b>医療安全大会</b>	
附属病院	10月16日	第2回沖縄美ら海水族館遠隔授業	
	<b>10月21日</b>	<b>災害訓練</b>	
	<b>10月27日</b>	<b>最新がん医療セミナー</b>	
	10月30日	医療安全相互ラウンド	
	11月9日	こども病棟クリニックラウンWeb訪問	
	11月17日	がん教育講演会	
	12月7日	阪神5大学サステナブルがん人材養成プランがん教育講演	
12月13日	消防訓練		
12月20日	こども病棟出張プラネタリウム		
総合医療センター	<b>10月11日</b>	<b>防犯訓練</b>	
	<b>10月21日</b>	<b>災害訓練</b>	
	<b>11月18日</b>	<b>糖尿病デーフェスタ</b>	
香里病院	<b>10月15日</b>	<b>日曜乳がん検診(ピンクリボン)</b>	
	<b>10月19日</b>	<b>地下水浄化システム(井戸水開始式)</b>	
	<b>10月21日</b>	<b>市民公開講座</b>	
看護キャリア開発センター	<b>10月11日</b>	<b>第7期リカレントスクール入校式</b>	
	<b>12月6日</b>	<b>第7期リカレントスクール修了式</b>	
オール女性医師キャリアセンター	<b>11月15日</b>	<b>第1回医師キャリア支援のための交流会</b>	



地域生活援助論実習 I



学園祭



医療安全相互ラウンド



こども病棟クリニックラウンWeb訪問



総合医療センター防犯訓練



## 常翔啓光学園中学校・高等学校との協定締結

令和5年10月6日(金) 13時から枚方キャンパス医学部棟13階第一応接室において、本学看護学部、リハビリテーション学部と常翔啓光学園中学校・高等学校との教育連携事業に関する協定の締結式が行われました。本学木梨達雄学長、同中学校・高等学校山田長正校長をはじめとする関係者が列席し、協定書への署名、写真撮影が和やかな雰囲気の中で行われました。

同じ枚方市内にある大学と中学校・高等学校が協定を締結することで連携事業がより一層活発になり、地域の中学生・高校生たちに、早期から医療分野への興味・関心を持ってもらうきっかけに繋がることが期待されます。



協定書を持つ山田校長(左)と木梨学長(右)

## 国際大学院入学式

医

令和5年10月4日(水) 16時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において「令和5年度国際大学院入学式」が挙行されました。

入学式には木梨達雄学長をはじめ、岡田英孝副学長、齋藤貴徳副学長、大学院医学研究科金子一成研究科長、同人見浩史教務部長、同中邨智之教務副部長、国際化推進センター友田幸一センター長、同西山利正副センター長や指導教員らが列席し、合計6名の入学を歓迎しました。

新入生自己紹介では、各新入生がこれからの日本での生活への期待と研究活動への意気込みを述べました。



入学生と出席者の集合写真

## THE世界大学ランキングランクイン

令和5年9月27日(水)、英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)」による世界大学ランキング2024が発表されました。その結果、本学は『1001-1200』位にランクイン。関西では京都大学・大阪大学・神戸大学・京都府立医科大学に次ぐ5位、関西圏の私立大学で第1位となりました。

今年是指標が大幅に改定され、Teaching(教育)、Research environment(研究環境)、Research quality(研究の質)、International outlook(国際性)、Industry(産

業)の5つの分野、指標は13から17に増え、その比重も調整されました。総合大学に有利な評価となっていますが、本学も各分野のスコアで上昇が見られています。



**World  
University  
Rankings 2024**

## 関西医科大学学園祭2023

令和5年11月3日(金・祝)～5日(日)の3日間、「Revival」をテーマにした関西医科大学学園祭2023が枚方キャンパスにおいて開催されました。コロナ禍による規制が緩和され、4年ぶりに大学関係者以外も参加が可能となり、連日多くの方が来場。枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂や中庭に設置された特設ステージでは、軽音楽部やフォークソング部による演奏、ダンス部による公演、人気アーティストを招いたコンサートなど、3日間にわたって多彩な企画が繰り広げられました。また、各クラブや各学部、留学生による、それぞれの個性が存分に発揮された模擬店を出店。「Revival」の文字通り従来の活況が

復活し、大盛況の学園祭となりました。



学園祭実行委員メンバー

## 学長賞・川柳表彰式

令和5年10月16日(月)17時20分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、「令和4年度分学長賞授与式」が執り行われ、木梨達雄学長から受賞者に表彰状と副賞が贈られました。

続けて、「令和5年度医学部1学年課題川柳表彰式」が執り行われ、木梨学長から最優秀賞・優秀賞受賞者に表彰状が贈られました。

その後挨拶に立った木梨学長が、受賞者への榮譽を称えながら、自らの好奇心に制限を掛けることなく、自らが探究に熱中できる問いを見つけ、その探究を極めてほしいと述べ、今後の活躍を願うメッセージを受賞者の学生一人一人に送りました。

### ◆学長賞

(文化活動賞) 医学部 6年 三浦 雅郁さん  
(社会活動賞) 看護学部 4年 赤澤 奈々美さん

### 課題川柳(医学部)

(最優秀賞) 1年 金島 竜征さん  
「桜散る されど気ままに 根を広げ」  
(優秀賞) 1年 石井 日奈子さん  
「テスト前 はたらく細胞 見る未来」



学長賞受賞者と川柳最優秀賞・優秀賞受賞者

## 第3回大学院企画セミナー

医

令和5年10月19日(木)18時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、札幌医科大学医学部附属フロンティア医学研究所神経再生医療学部門再生治療推進講座本望修教授を講師に迎え、令和5年度第3回大学院企画セミナーが開催されました。大学院医学研究科人見浩史教務部長の司会の下、本望教授が「脊髄損傷患者に対する新しい幹細胞製剤—再生医療等製品—Cell therapy for spinal cord injury patients」をテーマに講演しました。企業との共同開発の患者さん自身の骨髄から採取した間葉系幹細胞を培養して製造する再生医療等製品「ステミラック注」について、研究の発端から臨床に至るまでの経緯、治験での患者さんの経過を紹介。静脈投与後の脊髄や神経の再生の様子、マウスでの動物実験、神経以外の血管系疾患や認知症への有効性などの今後の展望

について解説しました。教職員や大学院生ら約30名が参加し、講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、セミナーは盛り上がりを見せました。



静脈投与後の神経再生メカニズムについて解説する本望教授



## 令和5年度解剖体慰霊碑供養



令和5年11月9日(木) 11時から建仁寺塔頭正伝永源院(京都市東山区)において令和5年度解剖体慰霊碑供養が営まれました。これは、自らの遺志と無条件・無報酬の篤志をもって、医学の発展のためにご遺体を提供された御霊を供養する儀式で、白菊会役員、木梨達雄学長をはじめとする教職員が参列。僧侶による読経が捧げられ、参列者は哀悼の意を込めてご冥福をお祈りしました。



慰霊碑の供養をする木梨学長

## 第49回関西医科大学実験動物慰霊祭



令和5年11月27日(月) 14時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「第49回関西医科大学実験動物慰霊祭」が執り行われ、木梨達雄学長や附属生命医学研究所実験動物飼育共同施設大隈和施設長(微生物学講座教授)をはじめ、動物実験に関わる教職員等が列席しました。参加者全員で黙とうを捧げたのち、大隈施設長が、これまでの医学の発展における実験動物の存在意義と重要性、そして今後も社会的に適切に動物実験を行っていく必要性を述べ、慰霊の辞を捧げました。その後も研究者や教職員が次々に慰霊に訪れ、尊い命を捧げた実験動物の冥福を祈りながら菊の花を手向けました。



慰霊の辞を捧げる大隈施設長

## 第42回関西医科大学白菊会総会



令和5年10月5日(木) 13時から枚方市総合文化芸術センター1階ひらしんイベントホールにおいて、第42回関西医科大学白菊会総会が開催されました。本学教職員と篤志により医学教育のための献体を希望する会員ら75名が参加しました。木梨達雄学長の挨拶に続いて白菊会役員の見紹介、白菊会藤澤直子会長の挨拶、外科学講座関本貢嗣教授による特別講演の後に、行事・会計報告、会計監査報告、令和5年度予算審議を実施。第2部では、白菊会堂迫千草副会長と堂迫康雄トリオの演奏による「堂迫千草オンステージ」が上演され、会場は大いに盛り上がりました。



藤澤会長の挨拶

## 令和5年度臨床実習生（医学）認証式

医

令和5年12月27日（水）14時から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において令和5年度臨床実習生認証式が挙行されました。臨床実習生とは、臨床実習前OSCE及びCBTに合格して5学年に進級する学生に対し、臨床実習中の医学生としての医行為を認める制度です。

認証式では医学部金子一成学部長の挨拶の後に学生を代表して1名へ認定証を授与。医学部教務部岡田英孝部長の挨拶の後、臨床実習先を代表して、附属病院松田公志病院長、総合医療センター杉浦哲朗病院長から訓示が述べられました。

最後に学生代表から、臨床実習生としての誓いの言葉

が述べられ、学生たちは、臨床現場で始まる実習に向けて気を引き締めている様子でした。



認証を受けた新5学年学生と関係教職員、保護者

## 看護学部子ども大学探検隊

看

令和5年10月28日（土）10時から、枚方キャンパス看護学部棟において、「子ども大学探検隊」が開催されました。これは、枚方市内在住および市内の学校に通う小学生を対象とした事業で、今年度は児童22名が参加しました。当日は看護学部近藤麻理学生副部長（国際看護学領域教授）の挨拶による開会の後、「人の体を知る」と題したオリエンテーションを実施。続いてグループに分かれて「さまざまな呼吸音を聴診器で聞こう」、「ベビーの呼吸と脈を測ってみよう」、「心肺蘇生法について学ぼう」と題したさまざまなシミュレータを用いた体験実習が行われました。参加者たちは、各シミュレータの機能に驚きながら、熱心に体験に取り組んでいました。

プログラムの最後には参加者それぞれに受講証が手渡されました。



聴診器で呼吸音を聞く参加者

## 看護学部2年次生による保健師実習

看

令和5年10月3日（火）から11月10日（金）にかけて、看護学部2年次の学生が「地域生活援助論実習Ⅰ」の実習を行いました。この実習では、学生たちが秋田県、栃木県、岡山県、高知県などの日本各地に滞在し、さまざまな地域特性、保健所・市町村保健センターの事業内容や保健師活動を学びます。

10月29日（日）から11月2日（木）までの実習では、学生たちが岡山県西粟倉村において村唯一の診療所所属の看護師や保健師から保健福祉医療活動の実態について学んだほか、高齢者の方の交流の場「であい茶屋」に参加。

また、同青木秀樹村長が学生たちのもとを訪れ、「西粟倉村のキャッチコピーである『生きるを楽しむ』を目

指し、村民の健康を維持する仕組みづくりには、高齢者向けの対策はもちろん、これからは若い世代の健康維持のための対策も必要である」との村のビジョンや、今後の西粟倉村の取り組みへの期待などが話されました。



学生たちに語りかける青木村長



## 看護学部臨床看護学教員制度について

看

令和5年10月から看護学部と附属病院看護部との協働により、看護学部の臨床看護学教員制度が新たに開始しました。この制度は、看護学部生に看護師が実践の場で得た根拠に基づく質の高い技術と、最新の医療状況に応じた実践力を身につける教育を実施する目的で制定されました。

同11月14日(火)に、看護学部加藤令子学部長、安田照美統括看護部長、附属病院看護部島村里香部長列席の下で臨床看護学教員辞令交付式が行われ、11名の看護師が臨床看護学教員の辞令を受け取りました。

### 制度について

指導実施項目として以下が予定されています。

- 臨地実習指導
  - 演習科目指導
  - OSCEへの参加
- 本制度により以下のようなメリットが期待されています。
- 看護学部**
- 学部の教育内容や学生のレディネスを理解した指導者による臨地実習が可能となる。
  - 大学院進学希望者の増加が見込まれる。
- 附属病院看護部**
- 大学院修了者の意欲向上に繋がる。

## 保護者懇談会

医 看 リ

令和5年10月15日(日) 13時から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂を主会場に慈仁会全国懇談会が開催され、保護者236名が参加しました。新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に変更されたことに伴い、令和元年度以来となる通常形式での開催となりました。総会は各学年の講義室へ同時中継され、慈仁会羽原弘造委員長、木梨達雄学長の挨拶にはじまり、金子一成副学長・医学部長、西山利正学生部長が順に大学の状況を報告し、その後クラスアドバイザーとのクラス別懇談会、個別懇談会が行われました。また、図書館、シミュレーションセンター、歴史資料室及びカフェテリアの参観、学生食堂でのドリンクサービス、大学関連グッズの販売も行われ、全国から訪れた保護者で賑わいました。

同11月4日(土) 10時から、枚方キャンパス看護学部棟3階講義室2において、看護学部保護者懇談会が開催されました。全体会では、加藤令子学部長のあいさつに続き、教務部酒井ひろ子部長、学生部近藤麻理副部長、国試対策委員会大川聡子委員長から、学修の進捗状況や学生生活、国家試験対策について報告されました。その後は、各学年のクラス担任から学生の様子が報告され、参加した保護者は、熱心に耳を傾けていました。全体会終了後、事前の申し込みのあった希望者を対象に、個別面談が行われました。

同11月18日(土) 11時から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において保護者懇談会が開催されました。冒頭の飯田寛和学部長、理学療法学科池添冬芽学科長、作業療法学科種村留美学科長からの挨拶の後、学生部吉村匡史副部長から学生生活の様子等について、教務部佐藤春彦部長から臨床実習の概要や4年間のカリキュラムについて報告がされました。またキャリア支援委員会野村卓生委員長から国家試験対策や就職支援の取り組みについて説明がありました。全体会が終了後、別室にてリハビリテーション学部教員との茶話会が催され、教員と保護者の親睦が深められました。その後は事前に希望していた保護者とメンターとの個別面談が実施されました。懇談会は終始穏やかな雰囲気の下、終了しました。

## 医療ニーズ発表会

令和5年10月30日(月) 17時から、枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、オンライン配信形式併用で、今年で6回目となる「医療ニーズ発表会」が開催されました。これは学内教職員から募った医療ニーズを、その新しさ・技術の難易度・商品性等の観点から選抜し全国の製販企業に向けて発信するもので、産学連携による医療ニーズの社会実装化の取り組みです。齋藤貴徳産学連携・知的財産担当副学長(整形外科学講座教授)の挨拶に続き、産学知財統括室佐々木健一URA・産学連携コーディネータが本発表会の趣旨や本学の概要を説明。その後、過去の医療ニーズ発表会がきっかけで上市にい

たった3件の担当者の表彰が行われました。

その後は応募されたニーズの中から、選抜された29件について発表が行われました。



齋藤副学長(中央)による表彰の様子



## 若手研究者特集

様々な研究活動とその成果が学内外から表彰され、躍動する本学の若手研究者たち。その活躍の一端をご紹介します。  
※記事企画時点で40歳以下で、一定の研究成果を持つ研究者の先生方に取材する連載企画です。

# 血管攣縮を克服し、 安全なマイクロサージャリー手術の達成にむけて

医学部 形成外科学講座 松岡 祐貴 助教

### —現在の研究テーマとそのテーマに決めたきっかけを教えてください。

私の研究テーマは血管攣縮(スパズム)に関する内容です。血管攣縮とは血管の異常な収縮で、心筋梗塞やくも膜下出血に関連したものはよく知られているかと思います。形成外科では、マイクロサージャリー手術中に生じる血管攣縮がしばしば問題になります。マイクロサージャリー手術は、切断された指の再接着手術や、遊離皮弁手術(悪性腫瘍切除や外傷に伴う組織欠損に対して、体の他の部位から筋肉や脂肪などの組織を移植する方法)などが代表的です。それらの組織が生着する(生き残る)ためには、必ず血管吻合(移植される側の血管と移植組織の血管をつなぐこと)によって移植組織の血流を確保する必要があります。その血管は1mm~2mm程度と非常に細く、つないだ血管が詰まってしまうと移植した組織が死んでしまうため、術者は血管吻合のトレーニングを積み、手術中の血管の扱いや吻合には細心の注意を払います。

しかし、術者自身がコントロールできる範囲を超えているものの一つに血管攣縮があります。血管攣縮は主に血管周囲の手術操作によって誘発され、場合によっては血管の閉塞から手術の失敗につながる場合があります。私もこれまで血管攣縮の解除に難渋し、手術が思うように進まない症例を経験しました。血管攣縮の治療として、血管拡張薬を投与して攣縮の解除を試みますが、特に動脈硬化血管では難しい場合があります。

これまで血管攣縮の評価に適した動脈硬化動物モデルが確立されておらず、動脈硬化血管での難治性の術中血管攣縮のメカニズムは未だ不明な点が多いです。そこで、私は血管攣縮を評価するための動脈硬化モデル動物を確立し、動脈硬化と血管攣縮の関係を明らかにすることを目指しました。

### —その研究について教えてください。

ラットにアデニンとビタミンDを添加した飼料を与える腎不全モデルにおいて、大動脈にMonckeberg型の石灰化型動脈硬化が生じることは既に示されていました。それを応用して、末梢血管の大腿動脈においても安定して石灰化型動脈硬化を生じさせることに成功し、それを末梢血管攣縮評価のための動脈硬化モデルとして使用しました。実験では、動脈硬化を生じた大腿動脈では、エピネフリンを大腿動脈に血管外投与することによって誘発された血管攣縮は、血管拡張薬のリドカインを投与しても解除できず、血流を改善させる効果を認めませんでした。また、血管の収縮拡張に重要な血管平滑筋が骨芽細胞様の細胞へ変性しており、それが動脈硬化血管において血管拡張薬が無効なメカニズムの一因となっていると考えられました。以上より、動脈硬化血管の血管攣縮には従来の血管拡張薬では効果が乏しいということが分かりました。



### —研究の目標としていたり将来展望を教えてください。

今回、アデニン/ビタミンD飼料投与によるラット大腿動脈硬化の新規モデルを確立し、これは今後、動脈硬化性血管攣縮のモデルとしてさらに応用が可能であると考えています。直近の研究の目標は、動脈硬化血管に有効なスパズム治療薬や予防策の開発を行うことです。高齢化とともに増加する動脈硬化血管におけるマイクロサージャリー手術の需要にこたえ、より安全で安定した治療を提供することに貢献したいと考えています。

### —研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

大学院への進学を考える際、完全に一度臨床を離れるのが気がかりな方もいると思います。私は毎日手術がしたいぐらい臨床が好きなので、臨床と並行して研究を進めましたが、試行錯誤しながら新しいものを作り上げていく研究の楽しさを知り、大学院に進んでどっぷり研究生活に浸かるのも悪くないと感じることもあります。臨床医の立場として、新しいものを作るには、まず日々の診療の中でいろいろなことに対して疑問をもつことが重要だと考えています。今までの通りするのではなく、なぜそうするのか、本当にそれが正しいのか、他にいい方法はないのか、を考え続けることです。そこから新しいアイデアが生まれ、いつのまにか研究者としての一歩を踏み出すことができると感じています。

#### ■略歴

平成26年 4月 神戸市立医療センター西市民病院 研修医  
平成28年 4月 八尾市立病院 形成外科 医員  
平成31年 4月 関西医科大学 形成外科学講座 助教  
令和 4年 4月 がん研有明病院 形成外科 医員  
令和 5年10月 関西医科大学 形成外科学講座 助教

#### ■主な受賞・競争的研究費採択歴

- ①学内研究助成D1  
動脈硬化ラットを用いた術中血管スパズムモデルの開発と新規スパズム抑制薬の効果の検討  
総額:30万円 研究期間:令和2年度
- ②日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)  
動脈硬化ラットを用いた血管スパズムモデルの作成とスパズム抑制薬の効果の検討  
総額:403万円 研究期間:令和3-令和5年度(金額には間接経費を含みます)
- ③令和3年度 教員評価優秀者
- ④令和5年 医療ニーズ発表会発の医療機器製品化成功「シヨベルコー」

## IBD 患者へ適切な看護を提供できる 人材を育成するために

看護学部 慢性疾患看護学領域 藤本 悠 助教

### —現在の研究テーマとそのテーマに決めたきっかけを教えてください。

現在は、炎症性腸疾患 (IBD) 患者さんに対する適切な医療の提供に向けた教育プログラムや、離島へき地における保健師確保の現状と課題について研究を進めています。

難病である IBD 患者さんへの医療提供においては、適切な看護を提供できる人材を育成することが重要です。そのため、看護師を始めとした医療スタッフに対する教育が不可欠なのですが、本邦では IBD 看護における体系的な教育体制が整備されていないという課題があります。教育プログラムの効果的な実施について明らかにし、その普及と効果的な展開に寄与することができるよう研究を進めています。

### —その研究について教えてください。

IBD 看護における教育プログラムの開発では、インストラクショナルデザインという教育デザインを活用して看護師向けの研修を設計し、昨年度 4～8 月にかけて実施しました。この研修では、オンラインで受講する eラーニングと対面で受講するグループディスカッション形式を併用し、体系的な教育が行えるよう配慮しました。特に、IBD 看護への習熟度の違いから学習効果が低下することがないように、初級者に向けた病態生理の講義から始まり、熟練者にも学びとなるよう事例を用いた理論的看護の展開が実施に繋がるように設計しました。この研修会にはオンラインでは約 70 名、対面では全国から約 40 名にご参加いただき、知識を付与するのみでなく、それぞれの施設における実践に関する情報共有の場になるという効果もあったと考えています。

IBD 患者さんは全国で推計約 29 万人がいるとされていますが、難病であるため、専門的な知識を有する医療スタッフの人員や教育体制の不足が指摘されています。この研修会にも北海道～九州まで全国からご参加いただくなど、全国的な研修会開催への期待が広く寄せられました。今後は看護師のみでなく、IBD を支援する医療スタッフ全般に対する人材育成のための体制構築が急務であると考えます。

### —研究の目標としていることや将来展望を教えてください。

このように、全国で IBD 看護に対する教育への需要があつつも、一般化された教育体制の構築には至っていません。今後は、研修内容や開催方法を検討し、オンラインで受講可能な eラーニングの拡大など、幅広く多くの医療スタッフに対する IBD への教育体制を構築していきたいと考えています。

### —研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

慢性疾患は患者さんの生活全般にわたって影響を及ぼすため、慢性疾患看護のアプローチは単なる治療だけでなく、患者さんとその支援者の生活の質を向上させることも含まれます。この分野での研究を通じて、効果的な医療者への教育プログラムの開発



によって IBD 患者さんへの包括的な支援が可能となり、今後の臨床での実践が良くなることを願っています。一つの研究から一つの新しい看護が生まれるわけではありませんが、一つの研究が今後の看護の基礎につながるように今後も頑張っていきたいと思っています。

また、研究は多くの資源を要し熱意を持って挑戦する必要がありますが、その過程で培われるスキルや知識を通じて看護の魅力がさらに広がります。みなさんも是非、自分の臨床疑問を解決できるような研究を見つけ、新たなアイデアの発見に挑戦してみてください！

#### ■略歴

平成 23 年 3 月 大阪大学医学部保健学科看護学専攻 卒業  
 平成 23 年 4 月～平成 27 年 3 月 大阪大学医学部附属病院看護部 勤務  
 平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程 修了 修士(看護学)  
 平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月 北大東村役場福祉衛生課 勤務  
 平成 31 年 4 月～ 関西医科大学看護学部・看護学研究科慢性疾患看護学領域 助教  
 令和 3 年 4 月～ 京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 博士後期課程

#### ■主な受賞・競争的研究費採択歴

- ・平成 28 年  
第 7 回日本炎症性腸疾患学会 優秀ポスター賞「クローン病患者の運動習慣についての実態調査」 研究代表者：水野 光
- ・平成 31 年～令和 4 年  
文部科学省研究費補助金 (若手研究) 「離島へき地における保健師確保に関する現状と課題」 研究代表者：藤本 悠
- ・平成 31 年 9 月～令和 4 年 9 月  
ファイザー医学教育プロジェクト助成 (Independent Medical Education Grants) 「インストラクショナルデザインを用いた IBD 外来看護専門家育成プログラムの開発」 研究代表者：瀬戸 奈津子
- ・平成 28～30 年度  
文部科学省研究費補助金 (挑戦的萌芽研究) 「インシデント発生に関連する看護師のコンディション・アセスメントツールの開発」 研究代表者：瀬戸 奈津子
- ・令和 2～6 年度  
文部科学省研究費補助金 (基盤研究 C) 「高齢慢性疾患患者を対象とした外来看護包括的アセスメントツールの開発」 研究代表者：瀬戸 奈津子



## 第7回学術祭

令和5年12月2日(土)、3日(日)、枚方キャンパス医学部棟1階オープンラウンジ、加多乃講堂において、「第7回学術祭」が開催されました。これは、本学における学術研究の更なる発展を目的としたもので、今年で7回目の開催となりました。

初日は木梨達雄学長による開会の辞で幕を開け、両日とも多くの参加者が訪れました。

### 第7回学術祭

#### 【主なプログラム】

##### ■三学部 合同シンポジウム

###### 「ポストコロナを見据えたKMUにおけるDX推進の取り組み」

生理学講座中村加枝教授が座長を務め、医学部、看護学部、リハビリテーション学部の6名のシンポジストが「AI」「Open Science」「教育カルテ」「Data Platform」などをキーワードとした演題の発表を行いました。

##### ■KMU研究コンソーシアム

生理学講座林美樹夫講師が座長を務め、8名の演者から取り組んでいる研究の概要が発表されました。

##### ■ランチョンセミナー

総合医療センター杉浦哲朗病院長が座長を務め、医療法人北辰会天の川病院寺崎由香院長補佐による講演が行われました。

##### ■「医学会賞応募演題」

10名の演者による口演が行われました。受賞者は4月発行予定の「広報Vol.65」にてご紹介する予定です。

##### ■「ポスター発表・フラッシュトーク・フリートーク」

エントランスホールにて、若手研究者や留学生、大学院生、研究医養成コース学生ら32名による「ポスター発表」が行われました。それぞれのポスターの前では参加者同士の活発なフリートークが見られました。

#### 【ポスター受賞者】

- D1** 安河内 彦輝 講師  
(附属生命医学研究所ゲノム解析部門)  
「日本人の低圧低酸素生理応答を駆動する分子機構に関する研究」
- D2** 亀井 孝昌 診療講師  
(医学部iPS・幹細胞応用医学講座)  
「ヒトiPS細胞由来小脳プルキンエ細胞による細胞治療の検討」
- E** 蒲生 恵三 6学年 (医学部解剖学講座)  
「シュワン細胞におけるスルファチド分子種の発現と機能解析」



第7回学術祭ポスター



開会の辞を述べる木梨学長



合同シンポジウムの講演者



口演の様子



ポスター発表の様子

## ひらかた市民大学

このイベントは、本学も参画する学園都市ひらかた推進協議会および枚方産学公連携プラットフォームの事業として毎年開催されているものです。枚方市内の大学の専門的な知識・情報を学習できる講座を市民の皆さんに提供しています。

今年のテーマは「健康寿命延伸を目指して」。リハビリテーション学部作業療法学科種村留美学科長の「健康寿命延伸を目指して～脳を若々しく保とう!～」、理学療法学科池添冬芽学科長の「健康寿命延伸を目指して～カラダを若々しく保とう!～」の2つの講演が行われました。作業療法と理学療法のそれぞれの観点から、脳の鍛え方のコツ、筋肉の機能低下の予防方法など、具体例をあげながら「健康」を保つ方法を解説しました。



## 病院 第20回医療安全大会開催

令和5年12月18日（月）17時30分から、附属病院13階講堂、総合医療センター南館2階臨床講堂、香里病院8階会議室、くずは病院2階研修室の4病院4会場をWeb会議システムで結び、「第20回医療安全大会」が開催されました。本年は附属病院54名、総合医療センター52名、香里病院26名、くずは病院48名の合計180名が参加しました。

医療安全管理センター神崎秀陽センター長が司会を務め、開会に先立ち、山下敏夫理事長ならびに附属病院松田公志病院長から挨拶がありました。挨拶では、医療安全が患者さん、患者さんの家族、医療従事者、そして医療を提供する医療機関において非常に重要であるとの認

識が語られ、医療における安全の重要性を再認識するという本会の目的などが語られました。

4病院から6名の演者が、各病院での医療安全に関する取り組みや事例の発表を行い、発表の後には質疑応答の時間も設けられ、遠隔中継された病院間で他院の事例を自分たちの職場における安全性向上に役立てようと、積極的に質問する姿が見られました。閉会の挨拶では総合医療センター杉浦哲朗病院長から、各病院での取り組みを共有できたことへのねぎらいの言葉があり、会が締めくくられました。



附属病院会場の様子



総合医療センター会場の様子



香里病院会場の様子

### 【当日の発表プログラム】

①附属病院	「手術時の内服薬の中止・再開に係るインシデントとその対策」	医療安全管理部長 宮崎 浩彰
②くずは病院	「整形手術関連インシデント対策 ～リハビリテーション教育指導～」	医療安全管理部長 小林 史朋
③香里病院	「碎石位術後のコンパートメント症候群～発症のメカニズムと多職種マネージメントの実際～」 医療安全管理部長 吉田 良 手術室 師長 在原 美紀 リハビリテーション科 理学療法士 和田 貴仁	
④総合医療センター	「手術支援ロボット『Da Vinci Xi』導入に際して」	腎泌尿器外科 診療部長 三島 崇生

## 病院 北河内6医師会と関西医科大学医師会との合同懇談会

令和5年10月28日（土）17時からリーガロイヤルホテル（大阪市北区）ウエストウイング山楽の間において、「令和5年度北河内6医師会と関西医科大学医師会との合同懇談会」が開催されました。これは、本学が位置する北河内医療圏内の医師と本学教職員が交流を深め、密な連携を図るためのもので、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いたことを受け、4年ぶりに開催されました。冒頭の門真市医師会西川覚会長挨拶に続く第一部では、附属病院松田公志病院長が座長を務め、附属病院脳卒中センター薬師寺祐介副センター長が「変貌する脳卒中診療」と題して講演。続いて「進化するがん薬物療法と関西医大の取り組み」と題して附属病院がんセンター倉田宝保センター長が講演しました。

続いてタワーウイング3階ロイヤルホールへ会場を移して行われた第二部懇親会では守口市医師会博多尚文会長の挨拶の後、香里病院岡崎和一病院長の音頭で乾杯。地元医師や本学教職員ら出席者の間で話が花が咲きました。

最後は関西医科大学医師会齋藤貴徳副会長の挨拶をもって閉会となりました。

## 大学・附属病院 災害訓練等

令和5年10月21日（土）8時50分から、附属病院で第16回関西医科大学附属病院災害訓練が実施されました。今回の訓練は和歌山県南方沖でマグニチュード9.1の最大震度7の地震が発生し、大阪府が甚大な被害を受けると想定して実施。訓練では、発災後すぐに院内災害対策本部を設置。続いて1階の参集受付に集まった職員らがトリアージポスト、赤・黄・緑・黒の各ゾーンにそれぞれ配置され、搬送されてきた傷病者のトリアージや処置、傷病者家族らへの説明を真剣な面持ちで実施しました。訓練終了後の反省会では今回の訓練を受けて良かった点、今後改善すべき点などが共有されました。

同日9時20分からは、枚方キャンパス医学部棟で1学年の学生に対して避難訓練が実施され、学生たちが授業開始前に発災したという想定のもと、避難訓練・点呼及び安否確認訓練に臨み、その後、防災に関する特別授業を実施しました。同時に法人危機対策本部設置訓練も実施され、参加した職員が初動対応にあたりました。

また同10月19日（木）11時40分から、枚方キャンパス看護学部棟でも1年次の学生に対して、避難訓練・点呼及び安否確認訓練、要救護者搬送訓練を実施。同10月26日（木）15時10分からは、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟でも1年次の学生、教職員らが参加して防災・消防訓練が実施されました。

## 令和5年度救急医療功労者総務大臣表彰

医学部救急医学講座鉦方安行教授が令和5年度救急医療功労者総務大臣表彰を受けました。これは、救急業務の推進に貢献し、社会公共の福祉の増進に顕著な功績があった個人及び団体を表彰するものです。

### 鉦方教授コメント

今回の受賞は、北河内地域メディカルコントロール協議会会長として救急搬送実施・受入のICT (ORIONシステム)を応用した救急医療体制の改善や、地域保健所・消防と協力した対応などを総務省消防庁に評価していただいたことと存じます。この栄誉は、日頃からともに救急医療に携わってくださっている本学および圏域の多くの皆さまのお力添えあっての賜物です。ここに深く感謝申し上げますとともに心より御礼を申し上げます。



## 令和5年度救急医療功労者大阪府医師会長表彰

医学部救急医学講座齊藤福樹准教授が一般社団法人大阪府医師会から令和5年度救急医療功労者大阪府医師会長表彰を受けました。これは、救急医療業務で優れた功績がある個人・団体へ贈られるもので、今年令和5年9月7日(木)に4年ぶりに式典が開催され、齊藤准教授は式典の場で、大阪府医師会高井康之会長から表彰状を受け取りました。

### 齊藤准教授コメント

今回の受賞は、コロナ禍における関西医科大学の地域救急における貢献を評されたものと感じております。ひとえに諸先輩方、多忙な業務を引き受けていただいたスタッフのおかげであります。引き続き、関西医科大学の発展の一助を担うよう努力を続ける所存であります。



## 令和5年度京都府知事表彰

令和5年11月19日(日)に開催された京都府診療放射線技師会創立75周年(法人設立40周年)記念式典において、附属病院放射線部の久保田裕一管理技師長が公益社団法人京都府診療放射線技師会から京都府知事表彰を受けました。これは、永年にわたり京都府診療放射線技師会事業推進と診療放射線技師の地位向上に貢献したことにより与えられたものです。

### 久保田管理技師長コメント

この度は、知事表彰をいただき大変光栄に思います。平成10年に技師会の地区理事に選出されて以来、平成16年より常務理事、平成28年から副会長として計25年間。少なからず医療及び放射線技術学の向上発達に貢献できたのだと嬉しく思います。今後も引き続き公衆衛生の向上及び府民の保健維持に寄与できるよう頑張っていきます。



## 令和5年度大阪府保健衛生関係功労者表彰

附属病院栄養管理部吉内佐和子係長が、大阪府から令和5年度大阪府保健衛生関係功労者の栄養関係功労者として表彰を受けました。これは栄養、食品衛生、調理、環境衛生などの保健衛生の向上に尽力し、その功績が顕著な個人及び団体・施設に対して贈られるもので、吉内係長は令和5年11月9日(木)に開催された式典の場で、大阪府渡邊繁樹副知事から表彰状を受け取りました。

### 吉内係長コメント

当院において患者さんの栄養管理を中心に、院内の委員会や多職種の方々と共に市民向けにアレルギー講座の実施や患者会を通じた栄養教育の普及を評価頂きこのような賞を頂くことができました。日々、多職種の方々と協力して栄養を広める中で患者さんの笑顔を見られることが私の喜びでもあります。栄養が大切と云ってくださり一緒に活動して下さるスタッフの皆様に心より感謝申し上げます。





附属病院

総合医療センター

## 北河内がん診療ネットワーク協議会合同イベント

令和5年12月5日(火) 13時30分から枚方市総合文化芸術センター関西医大 小ホールにおいて、北河内がん診療ネットワーク協議会合同イベント「がんについてもっと知ろう！」が開催されました。このイベントはがん診療連携拠点病院の持つ医学知識を広く一般市民の方に還元することを目的に実施されました。

4年振りの実施となった今回は、附属病院がんセンター倉田宝保センター長(呼吸器腫瘍内科学講座教授)による講演「がんに対する新しいこころみ」に加え、歌手の木山裕策さんによる特別講演とミニコンサートを実施し、約130名が来場しました。来場者アンケートでは「がん

治療の新しい情報を知れて良かった」「木山さんのお話と歌を聴いて希望を感じた」など、コメントが多く寄せられました。



倉田教授によるがん薬物療法の解説

附属病院

## 最新がん医療セミナー

令和5年10月27日(金) 15時30分からOMMビル京阪ホールディングス株式会社集会場(大阪市中央区)において、「最新がん医療セミナー」が開催されました。附属病院は厚生労働省から教育機関や企業に外部講師として医療従事者を派遣し、がんに関する正しい知識の普及・啓発に務める「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。これまで学校を対象とした出張講演は多くありましたが、企業への出張講演の第一弾として、「健康沿線<sup>®</sup>」で関わりの深い京阪ホールディングス株式会社での実施に至りました。

当日は同社グループ社員33名が参加。働き盛り世代が知っておきたい「がん」について、放射線治療科中村聡明診療教授の「がんについて学ぶ」、産婦人科中尾朋

子講師の「若年がん患者の妊孕性温存」の2題が講演されました。講演後の質疑応答では、治療法やセカンドオピニオンなど「がん」に関する様々な質問が挙がり、参加者の関心の高さがうかがえました。



講演の様子

総合医療センター

## 第1回防犯訓練

令和5年10月11日(水) 15時30分から地元の守口警察署の協力を得て、総合医療センターで初めての防犯訓練を実施しました。診察中の医師に危害を加える興奮状態の犯人への対応を想定し、スタッフによる警察への通報、被害医師の搬送と蘇生、周辺患者の避難誘導、防刃チョッキ等を着用した保安課職員による対応を行いました。通報を受けて到着した警察官による制圧・逮捕までの迫真の訓練は、15分という短い時間ながら参加者にとって初めての貴重な体験となりました。今回の訓練を機に、総合医療センターでは刺股の配備を増やすなど、病院の防犯体制を高める取り組みを実施しています。

総合医療センター

## 糖尿病デーフェスタ2023

令和5年11月18日(土) 14時から総合医療センター本館1階において、「世界糖尿病デーフェスタ2023 防ごう！知ろう！糖尿病！『糖尿病の食事のはなし』～あなたの食事、見直してみませんか～」が開催され、患者さんやその家族など25名が来場しました。栄養管理部山口悠夏管理栄養士、川原裕子管理栄養士による「糖尿病の食事のはなし～あなたの食事、見直してみませんか～」と題した講演、健康科学センター久保田真由美健康運動指導士による運動実演が行われました。そのほかにも血糖測定、展示コーナー、医師相談、インスリン体験など

のコーナーが設けられ、熱心に説明を聞いたり体験に取り組んだりする参加者の姿が見られました。



血糖値を下げる運動に取り組む参加者



総合医療センター

## 災害訓練

令和5年10月21日(土)総合医療センターで、東海・四国地方を中心とした南海トラフ地震発生を想定した災害訓練を実施しました。近隣地域の負傷者が次々に搬送、正面玄関でトリアージを行い、黒・赤・黄・緑の各ゾーンに分類された負傷者役の演技は真剣そのもので、対応する職員の災害対応能力や組織としての災害医療体制が試される機会となりました。今年度は訓練規模をコロナ発生前と同規模に戻し、LINEWORKSによる状況報告および安否確認、災害用備蓄食品の搬送など、新たな訓練にも取り組みました。総合医療センターでは、病院の

全職種が参加する訓練を毎年行うことで、災害拠点病院としての体制を検証し、意識向上につなげています。



災害訓練の様子

香里病院

## 日曜乳がん検診（ピンクリボン）開催

令和5年10月15日(日)9時から12時まで乳腺センターにおいて、日曜乳がん検診を実施しました。これは、認定NPO法人J.POSHが、子育て・介護・仕事・家事などで多忙な平日を過ごす女性が日曜日に乳がん検診を受けられるようにとの意図で取り組む「J.MS<sup>®</sup>：ジャパン・マンモグラフィー・サンデー（毎年10月第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィー検査を受診できる環境づくり）」に賛同し、香里病院で平成23年から実施しているものです。当日は寝屋川市民他20名が受検しました。



担当者による集合写真

香里病院

## 香里病院市民公開講座

令和5年10月21日(土)14時から、アルカスホール(寝屋川市立地域交流センター)メインホールにおいて、「超高齢社会への準備～予防と医療～」をテーマに市民公開講座が開催され、約200名が来場しました。

岡崎和一病院長の挨拶後、総合診療科部長石丸裕康理事長特命教授の「健康で長生きするための高齢者医療」、内科部長延山誠一病院教授の「たばこ肺気腫と肺がんのはなし」、整形外科部長上田祐輔病院准教授の「運動器のケアで目指そう、健康寿命の延伸」、眼科部長埜本慎病院教授の「眼科にかからないといけない理由～白内障と緑内障の話～」の4題が講演されました。各演題後

の質疑応答時には、参加者から多くの質問が寄せられました。



講演中の石丸理事長特命教授(壇上左)

香里病院

## 地下水給水式

令和5年10月19日(木)14時から香里病院敷地内において地下水給水式が執り行われ、岡崎和一病院長、高橋延行副病院長、安本マリ看護部長らが出席しました。

式典では岡崎病院長、高橋副病院長によるシステム稼働のほか、システムの簡易説明や生成された水の試飲が行われました。

このシステムは総合医療センターでも導入されており、井戸によって地下80メートルから地下水を汲み上げ、不純物を取り除くなどの処理を行うことで飲料可能な軟水を生成します。

式典をもって稼働したシステムにより受水槽には生成された水が送られ、院内で使用されます。この井戸は耐震構造を備えており、災害にも強いシステムは非常事態における水の安定供給を担います。



## 医師及び歯科医師臨床研修プログラムフルマッチ

令和5年10月26日(木)、医師臨床研修マッチング協議会により医師臨床研修マッチング結果が公表され、令和6年度採用者が確定しました。附属病院及び総合医療センターの研修プログラムは共に今回も100%のフルマッチとなりました。これは、同8月1日(火)及び8月10日(木)、枚方キャンパス及び附属病院において行われた「令和6年度研修医採用試験」の結果を受けてのものです。

また、同10月24日(火)、歯科医師臨床研修マッチング協議会により歯科医師臨床研修マッチング結果が公表され、こちらも3年連続100%フルマッチとなりました。これは同8月26日(土)に枚方キャンパスで行われた「令和6年度研修歯科医採用試験」の結果を受けてのものです。

看護キャリア開発センター



## 第7期関医・看護師リカレントスクール

令和5年10月11日(水) 10時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、第7期「関医・看護師リカレントスクール入校式」が挙行され、受講する8名が入校式に臨みました。教職員8名が臨席する中、関医・看護師リカレントスクール金子一成スクール長からの告辞に続き、受講生代表の決意表明が行われました。

リカレントスクールでは、およそ2カ月間、リモートでの講義や、シミュレーションセンターで最新の機器を使った演習、附属4病院の訪問看護ステーションでの実習など、看護師への復職を支援するためのプログラムが行われました。

同12月6日(水)に行われた修了式では、受講生一人ひとりに金子スクール長から修了証書が手渡されました。

修了生挨拶では、「入校当初の焦りと緊張は講義や実習を経るにつれ、もう一度看護師として働きたいという強い気持ちに変化していきました」との言葉が述べられました。



演習(救急処置・AEDの取り扱い)を行うリカレントスクール受講生

オール女性医師キャリアセンター



## 医師キャリア支援のための交流会

令和5年11月15日(水) 17時から、枚方キャンパス医学部棟3階食堂前において、第1回医師キャリア支援のための交流会が開催されました。オール女性医師キャリアセンター主催の、医師のキャリアパスやワークライフバランスについて考えることを目的としたイベントで、女子のみならず男子も含む学生、医師や大学関係者29名が参加しました。

冒頭、オール女性医師キャリアセンター植村芳子センター長(病理学講座学長特命教授)の挨拶に続き、同覚道奈津子副センター長(形成外科学講座教授)、同滝澤奈恵講師(腎泌尿器外科学講座講師)が司会兼パネリストを務め交流会がスタート。「どうする? どうした? 結婚・出産・育児と仕事の両立」と題し、事前に寄せられた質問に覚道副センター長と滝澤講師が回答する方式でイベントが進行しました。

医師としてのキャリアプランの立て方や、子育てをし

ながら仕事と家庭をどのように両立するかについて、子供が急に発熱した際の対応や、外科手技の練習時間の取り方など、経験者ならではの具体的な事例や体験談を交えたアドバイス豊富な回答に、参加者たちは真剣に聞き入っていました。



豊富な経験談に熱心に耳を傾ける参加者





## 石崎優子診療教授が日本学術会議第26期連携会員に任命されました

医学部小児科学講座石崎優子診療教授が日本学術会議第26期連携会員に任命されました。

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約87万人の科学者を内外に代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われています。(日本学術会議Webサイトより)

## 本学教職員編著作物の紹介

令和5年1月～12月に発行された本学教職員編著作物を紹介します。 ※判明分のみ

- 『一筋縄ではいかない症例の肺がん治療』  
医学部呼吸器腫瘍内科学講座 倉田 宝保 教授・吉岡 弘鎮 准教授 編集・全体監修  
出版：メジカルビュー社 ISBN：978-4-7583-2237-9 発行：令和5年9月
- 『知識をギュッ！ がん薬物療法のキホンとマネジメント 困ったときに絶対役立つお守り本』  
医学部呼吸器腫瘍内科学講座 倉田 宝保 教授・看護学部がん看護学領域 青木 早苗 教授・  
附属病院薬剤部 藤井 良平 薬剤師 編集・全体監修  
出版：メジカルビュー社 ISBN：978-4-7583-2238-6 発行：令和5年12月
- 『がん患者の呼吸困難・痛み・精神症状を診るロジック』  
医学部心療内科学講座 蓮尾 英明 教授 著・編集・全体監修  
出版：メジカルビュー社 ISBN：978-4-7583-1819-8 発行：令和5年3月
- 『職場のメンタルヘルスケア入門』  
看護学部精神看護学領域 三木 明子 教授 他 編集・全体監修  
出版：医学書院 ISBN：978-4-260-05319-8 発行：令和5年9月
- 『終末期がん患者に対する緩和的作業療法』  
リハビリテーション学部作業療法学科 三木 恵美 准教授 他 編集・全体監修  
出版：協同医書出版社 ISBN：978-4-7639-2152-9 発行：令和5年11月

## 附属医療機関 Web サイトリニューアル

本学附属医療機関Webサイトをリニューアルいたしました。これに伴い、URLが変更になりました。「お気に入り」「ブックマーク」等のURLの再登録をお願い申し上げます。

### ■ 附属病院

<https://hp.kmu.ac.jp/>



### ■ 総合医療センター

<https://hp.kmu.ac.jp/takii/>



### ■ 香里病院

<https://hp.kmu.ac.jp/kori/>



### ■ くずは病院

<https://hp.kmu.ac.jp/kuzuha/>



### ■ 天満橋総合クリニック

<https://hp.kmu.ac.jp/temmabashi/>



### ■ くずは駅中健康・健診センター

<https://hp.kmu.ac.jp/kuzuhaekinaka/>







## 学会賞等受賞情報

令和5年7月～12月の学会賞受賞者等を紹介します。

## 奨励賞

医学部麻酔科学講座 中本 達夫 診療教授

■テ ー マ Ultrasound guided lumbar root block in supine position via throco-lumbar-iliac fascia plane.

■授与学会 6th annual meeting of Korean Society of Regional Anesthesia, RA-Asia 2023

Young Investigator Award (YIA)  
優秀賞

医学部リハビリテーション医学講座  
久保 峰鳴 理学療法士

■テ ー マ 変形性膝関節症患者における歩行時膝関節の動的なStiffnessと推進力および制動力の関連性

■授与学会 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会



## Best oral presentation award

医学部外科学講座 橋本 大輔 講師

■テ ー マ Re-evaluation of regional lymph nodes in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma in the pancreatic body and tail

■授与学会 The 7th Kansai- Yeungnam HBP Surgeons Meeting 2023



## 座長賞

医学部眼科学講座 田上 優佳 専攻医

■テ ー マ ガンシクロビルの点眼投与によるサイトメガロウイルス角膜炎の臨床経過

■授与学会 第59回日本眼感染症学会

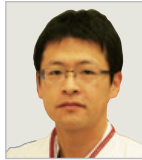


## 総会賞

医学部腎泌尿器外科学講座 谷口 久哲 講師

■テ ー マ 人工尿道括約筋埋込術後患者における過活動膀胱の有病率と危険因子についての検討

■授与学会 第73回日本泌尿器科学会中部総会



## 第33回公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金

看護学研究科博士後期課程治療看護分野  
古川 佳子 大学院生

■テ ー マ 炎症性腸疾患とともに生きる患者の“Positive living”に至るプロセス

■授与団体 公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金



## ポスター優秀演題賞／若手奨励賞

医学部外科学講座 宮崎 秀高 助教

■テ ー マ 膣体尾部癌において経胃的EUS-FNAから腹水細胞診を行うまでの期間がCYに与える影響

■授与学会 消化器外科学会



## 最優秀演題賞

リハビリテーション学部理学療法学科

福島 卓矢 助教

■テ ー マ 外来化学療法施行中の進行・再発肺がん患者の身体活動量は生命予後と関連する

■授与学会 第6回日本がん・リンパ浮腫理学療法学会学術大会



## 最優秀演題

医学部腎泌尿器外科学講座 吉田 崇 助教

■テ ー マ LAG-3/FGL1の発現は尿路上皮癌における免疫チェックポイント阻害薬の効果と関連する

■授与学会 第61回日本癌治療学会学術集会



## 座長賞

医学部眼科学講座 中山 弘基 助教

■テ ー マ 非定型抗酸菌による感染性涙嚢炎の2例

■授与学会 第59回日本眼感染症学会



## 優秀演題賞

附属病院緩和ケアセンター 佐久間 博子 師長

■テ ー マ がん患者における疼痛援助希求評価と個別化鎮痛目標値の関連性

■授与学会 第36回日本サイコオンコロジー学会総会



## 岩坂壽二名誉教授 叙勲

岩坂壽二名誉教授(総合医療センター名誉病院長・前病院長、内科学第二講座前教授)が、長年の教育研究に対する功労を称えられ、令和5年秋の叙勲で瑞宝小綬章を受章されました。なお、勲章は国家または公共に対し功労のある者を広く対象に授与されるもので、瑞宝章は、国及び地方公共団体の公務または公共的な業務に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた者を表彰する場合に授与されます。

# 教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。

(主に令和5年10月1日～12月31日 ※判明のみ)

## ■ テレビ等

光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	文化放送「ロンドンフーズ2号田村淳のNewsCLUB」 (11月4日)	小林所長が出演し、作用機序や従来のがん治療との違いなどについてパーソナリティからの質問に答えるかたちで解説。光免疫療法開発までの経緯や適応拡大など今後の展望についても語りました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	BSテレ東「教えて!ドクター-家族の健康」 (11月4日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、日本人の死因に多い肺炎について症状や原因を解説したほか、ワクチンの接種でしっかりと予防をすることが大切だとコメントしました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「newsランナー」 (11月8日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、インフルエンザが流行している原因や複数回感染する可能性について見解を示したうえで、感染対策としてワクチン接種やマスクの着用が有効であるとコメントしました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「newsランナー」 (12月1日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、プール熱や溶連菌の感染が流行している状況を取り上げたコーナーで、それぞれの症状や治療法、かからないための対策について見解を述べました。
総合診療医学講座 石丸 裕康 理事長特命教授	KBS京都「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」 (12月21日)	石丸理事長特命教授が、番組のコーナーである「ほっかほか今朝の聞くサブリ」に電話出演し、自身の専門分野であるプライマリーケアについてインタビュー形式で様々な質問に回答しました。

## ■ WEBメディア等

附属病院健康科学センター 木村 穰 理事長特命教授 黒瀬 聖司 講師	スポーツ栄養Web (10月19日)	木村理事長特命教授、黒瀬講師と大阪産業大学の研究チームが、減量介入に際して通常の栄養・運動指導に加え咀嚼回数や咀嚼時間を増やす指導を追加すると、BMIの低下だけでなくインスリン抵抗性、空腹時血糖値などの肥満関連指標が改善する可能性を示唆するデータを発表することが取り上げられました。
医学部PS・幹細胞再生医学講座 服部 文幸 研究教授	日経バイオテック (10月23日)	服部研究教授らのチームによる、ヒトiPS由来神経幹細胞を用いて人工知能(AI、機械学習)が被験物の濃度依存性中枢作用の有無を予測できる可能性を示した研究について掲載されました。
医学部精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授 総合医療センター精神神経科 山本 敦子 作業療法士	糖尿病ネットワーク (10月31日)	うつ病が糖尿病の危険因子であることを解説した記事で、加藤准教授らの研究チームが行ったマインドフルネスによるうつ病の改善効果を明らかにした研究が取り上げられました。
医学部小児科学講座 金子 一成 教授 赤川 翔平 講師 寺本 芳樹 助教	日経バイオテック (11月7日)	金子教授、赤川講師、寺本助教らの研究チームが、腸内細菌叢の乱れが川崎病発症リスクとなる可能性を明らかにした研究結果を発表することが取り上げられました。
医学部小児科学講座 金子 一成 教授 赤川 翔平 講師 寺本 芳樹 助教	QLifePro (11月8日)	金子教授、赤川講師、寺本助教らの研究チームが明らかにした、腸内細菌叢の乱れが川崎病発症リスクとなる可能性について、研究の概要が掲載されました。
附属生命医学研究所分子遺伝学部門 植田 祥啓 講師 医学部内科学第三講座 堀谷 俊介 助教	日経バイオテック (11月8日)	植田講師と堀谷助教が、リンパ球の再循環におけるRap1活性化制御の重要性を明らかにした研究結果を発表することが取り上げられました。
医学部小児科学講座 寺本 芳樹 助教	時事メディカル (11月10日)	寺本助教らの研究チームが明らかにした、腸内細菌叢の乱れが川崎病発症リスクとなる可能性について、研究の概要が掲載されました。
附属生命医学研究所分子遺伝学部門 植田 祥啓 講師	日経バイオテック (11月10日)	植田講師らの国際共同研究チームが、低分子GタンパクRap1によるT細胞の前後細胞極性形成メカニズムを発見した研究結果を発表することが取り上げられました。
医学部麻酔科学講座 梅垣 岳志 准教授 附属病院看護部 柴崎 靖代 副部長	共同通信 (11月27日)	特定看護師を扱った記事で、研修に力を入れる病院として本学が取り上げられ、研修の様子や、特定看護師の活躍により疲労やミスが減ったとの梅垣准教授のコメント、本学独自の研修修了後の支援により現場の意識や看護の質が上がったとの柴崎副部長のコメントが掲載されました。
医学部眼科学講座 大中 誠之 講師	ダイヤモンドオンライン (11月27日)	加齢による目の病気について、その種類や症状、治療法に関する大中講師による解説が掲載されました。
医学部内科学第三講座 長沼 誠 教授	QLifePro (12月8日)	長沼教授らの研究により、重症潰瘍性大腸炎の第一選択療法として先端治療が有用であることを明らかにしたことが掲載されました。
附属生命医学研究所がん生物学部門 坂本 毅治 学長特命教授	日経バイオテック (12月20日)	坂本学長特命教授らの研究チームが、治療困難なトリプルネガティブ乳がんの抗がん剤抵抗性獲得の新たなメカニズムを解明したことが掲載されました。
健康科学センター 木村 穰 理事長特命教授	Wellulu (12月20日)	木村理事長特命教授らの研究により、咀嚼回数を増やすことで肥満が改善することを明らかにしたことについて、研究の概要や結果が掲載されました。
附属生命医学研究所がん生物学部門 坂本 毅治 学長特命教授	QLifePro (12月27日)	坂本学長特命教授らのチームによる、治療困難なトリプルネガティブ乳がんの抗がん剤抵抗性メカニズム解明および、抗がん剤感受性への変化を成功させた研究について、概要が掲載されました。

## ■ 新聞・雑誌等

関西医科大学 木梨 達雄 学長	全国医学部最新受験情報 (10月11日)	木梨学長が取材を受け、本学の歴史的背景やTHE世界大学ランキングで日本の私立大学で1位になったこと、受験生へのメッセージなどについて語った内容が掲載されました。
関西医科大学 木梨 達雄 学長	週刊文春 (10月5日)	筋肉が急激に衰える「サルコペニア」について、木村理事長特命教授によるその危険性と予防策の解説が掲載されました。
関西医科大学 木梨 達雄 学長	医事新報 (10月20日)	木梨学長が就任に際して、本学の紹介と今後の展望について紹介した記事が掲載されました。
附属病院健康科学センター 木村 穰 理事長特命教授	月刊「茶の間」 (10月31日)	筋肉が急激に衰える「サルコペニア」について、木村理事長特命教授によるその危険性と予防策の解説が掲載されました。
医学部内科学第一講座 三島 伸介 講師	北海道新聞 (11月8日)	海外渡航前の早めのワクチン接種を推奨する記事で、トラベルクリニックの普及が望まれるとの三島講師のコメントが掲載されました。
附属病院健康科学センター 木村 穰 理事長特命教授	ドクターシーラボ会誌 「シーラバー12月号」 (11月17日)	木村理事長特命教授が認知行動療法をもとに考案したダイエット方法を紹介した特集記事「リバンドしにくい1日だけダイエット」が掲載されました。
医学部総合診療医学講座 石丸 裕康 理事長特命教授	毎日新聞 朝刊 (12月11日)	石丸理事長特命教授が取材を受け、日常的な健康相談に乗り、患者さんを多角的に診る「プライマリーケア(初期診療)」について解説した記事が掲載されました。
医学部形成外科講座 日原 正勝 准教授	読売新聞 夕刊 (12月6日)	電気ケトルによる熱傷への注意を呼び掛ける記事で、附属病院で診察したやけど患者さん対象の調査結果が取り上げられ、あわせて、日原准教授による乳幼児のやけどの危険性に関するコメントが掲載されました。
医学部小児科学講座 石崎 優子 診療教授	読売新聞 夕刊 (12月9日)	石崎診療教授が取材協力した、決められた容量を超えて薬を摂取するオーバードーズの実態や危険性を解説した記事が掲載されました。
医学部外科学講座 海堀 昌樹 診療教授	名医のいる病院2024 総合版 (12月11日)	海堀診療教授が監修した肝がん手術ページで、肝がんの疾患の特徴や治療法、医療機関選びのポイントが掲載されました。
医学部泌尿器外科科学講座 木下 秀文 教授	名医のいる病院2024 がん治療編 (12月11日)	前立腺がんの項目で、その原因や自覚症状、診断方法、治療法について木下教授が監修した内容が掲載されました。
医学部小児科学講座 金子 一成 教授	読売新聞 夕刊 (12月16日)	腸内細菌の乱れが川崎病の発症リスクになり得ることを金子教授らの研究チームが発表することが取り上げられました。
附属生命医学研究所がん生物学部門 坂本 毅治 学長特命教授	日本経済新聞 朝刊 (12月29日)	坂本学長特命教授らのチームによる難治性の「トリプルネガティブ乳がん」に抗がん剤を効きやすくする手法を見つけた研究について、詳細が取り上げられました。
光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	読売新聞 朝刊 (12月29日)	「なるほど科学&医療」のコーナーにおいて小林所長が開発した光免疫療法が取り上げられ、国内初の研究開発拠点として光免疫医学研究所が紹介されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

## 編集後記

「令和6年能登半島地震」にて被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

さてそんな今年の三箇日には第100回東京箱根間往復大学駅伝競走が開催されました。100回の歴史は戦禍やコロナ禍など幾多の困難を乗り越えて作られました。

懸命に走り櫓を繋ぐ学生たちからもらえる力を感じながら、この度の災害も乗り越え、穏やかな年となりますよう心から祈念いたします。(M)

## 関西医科大学広報 Vol.64

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)  
FAX 072-804-2638

<https://www.kmu.ac.jp/>  
E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

令和6年1月19日(金)発行